



2人の絆 大切なペアと大健闘！

ねづけいし  
根津圭威士さん(左)

(白石中3年)

あこしまあらた  
阿子島新さん(右)

(白石中3年)

## 男子ソフトテニスで 全国大会3位入賞！

8月19日から21日、花咲スポーツ公園テニスコート（北海道旭川市）で開催された「第53回全国中学校ソフトテニス大会」の個人戦（ダブルス）で、白石中学校3年の根津圭威士さんと阿子島新さんが3位入賞を果たしました。



▲表彰式後、笑顔で記念撮影をする（左から）顧問の太田正吾先生、根津さん、阿子島さん、根元先生

助け合い、切磋琢磨してきた仲であるからこそ、強い絆で結ばれた2人の力が全国の舞台で躍進しました。

位という大健闘を見せてくれました。根津さんは「緊張していつものプレーができなかった場面もありましたが、声を掛け合いながら試合を楽しむことで自分のプレーをすることができました」と全国での戦いを振り返りました。阿子島さんは「お互い声を出すことで挑戦する気持ちは忘れませんでした。3位に入賞できたのは、仲間や顧問の先生方、保護者の支えのおかげです」と話してくれました。お互いのことを「苦しいときでも信頼して頼れる、ペアとして大切な存在」と話す2人。お互いに

上がってくるため、速いボールに対応できるように大人を相手に練習を重ねてきました。また、OBも激励に訪れ、試合形式で一緒に練習をするなど周りの方々もサポートしてくれました。迎えた全国大会。「手に汗握る接戦が多かった」と顧問の根元勝美先生が話す通り、1回戦と2回戦を勝利し、ベスト8を決める3回戦では、序盤にリードされる苦しい試合となりましたが、4-3で見事逆転勝利を収めました。その後、準決勝で2-4と惜しくも敗れてしまいましたが、堂々の3

中 学でペアを組んだ2人は、昨年の県大会で3位となり東北大会に出場しましたが、初戦敗退。全国の舞台に立つために、新たなことにチャレンジすると自分たちのプレーに影響が出ると感じた2人は「自分たちの技術面の精度を上げていこう」と努力し続けてきました。7月22日から行われた県大会では、個人戦で準優勝。昨年のリベンジとして臨んだ東北大会でも個人戦3位の成績を収め、念願の全国大会への切符を手に入れました。全国レベルとなると相手の球速が

## 白石の若きアスリートが

## 全国の舞台で躍動！

全 国の舞台で会心の跳躍を見せた朝野さんは、小学4年から白石陸上競技クラブに入り、佐藤善典コーチのもと競技を始めました。小学5年の秋から跳躍種目に取り組み、三段跳びを始めたのは中学3年の秋。本格的な大会デビューとなった高校2年の地区大会から県高総体、東北大会と駒を進め、初の大舞台である福井インターハイでは、決勝に進出し自己ベスト14m65をマークするも入賞には至りませんでした。その後、国体、東北新人と大会が中止になりましたが、さらなる記録更新を

目標に冬のトレーニングに取り組んできました。「骨盤周りや軸を意識し、跳躍の動きをイメージしてきました」と話す朝野さん。迎えた今シーズン、5月21日から行われた県高総体では、15m03の大会新記録で優勝。東北大会でも見事優勝し、2年連続で全国の切符を手に入れました。「イメージ通りの空中動作ができれば記録は出る」と自信を持って臨んだ徳島インターハイ。予選から自己ベストの跳躍を見せ、決勝トップ8で追い風参考ながら15m35を跳び、全国3位入賞を果た

しました。「特に4回目以降、良いイメージで動けうまく跳ぶことができました」と朝野さんは自身の跳躍を振り返りました。現地で指導してきた佐藤コーチは「暑さや風など難しい条件下でしたが、上手に力を発揮できたことが今回の結果になりました。3位はご褒美です。これからも志を高く持ってチャレンジしてほしいです」と話してくれました。佐藤コーチは、白石工業高等学校の講師をしていた平成7年に同種目全国4位・15m20で県高校記録保持者の條川誠さんを指導。体



▲表彰式で笑みを浮かべる朝野さん  
※提供：日本陸上競技連盟

の使い方や技術面での基礎を重視した指導法「白石の跳躍」で、朝野さんの成長を見守ってきました。今回、朝野さんは多くの仲間や指導者の力を集結させた跳躍で、全国の舞台で大きく羽ばたきました。



会心の跳躍 全国で羽ばたく！

あさのけいと  
朝野景斗さん

(白石高3年・白石中出身)

## 陸上男子三段跳びで インターハイ

3位入賞！

8月3日から7日、鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム（徳島県鳴門市）で開催された「令和4年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会」（インターハイ）で、白石高等学校3年の朝野景斗さんが陸上男子三段跳びで15m35（追い風参考）を記録し、3位入賞を果たしました。